

学習時間確保のための I T 活用

千葉県野田市立東部中学校 中村 司

〇はじめに

2002年度より実施されている新学習指導要領の具体的な観点としては、授業時数の縮減と教育内容の厳選、個に応じた指導の充実、体験的・問題解決的な学習活動の重視等である。

しかし、実際の授業においては、学習内容が表面的すぎるとともに、従来の2時間分を1時間に納めた内容であるため、多くの補説が必要となり、十分に生徒が思考すべき時間を確保することが困難である。

そこで、情報入力補助装置及びネットワークを利用し、板書を直接印刷（ネットワーク対応印刷機を利用）し、生徒に配布することで学習時間を確保するとともに、それを活用した学習内容深化のための工夫についても研究することとした。

〇研究の内容

今回の研究は、社会科の授業を中心として、学習時間の確保や基礎基本の定着を図る取り組みを行うものである。

前述のように、新学習指導要領では、学習時間のかかる体験的・問題解決的な学習や個に応じた学習を重点化しているが、それぞれに時間がかかるという難点がある。そのため、基礎・基本を徹底するための時間を確保することが重要となってくる。

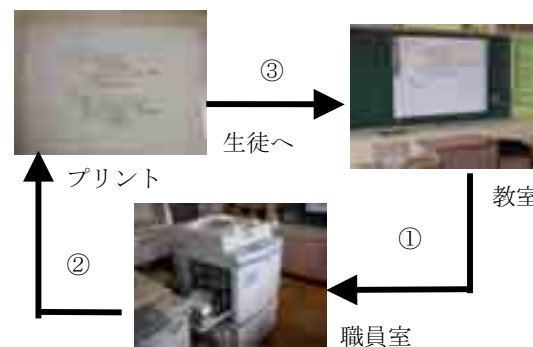
通常の授業では、①前時の復習、②本時の学習、③まとめ、④ノートというようなスタイルとなるが、このサイクルの中で、システムの工夫により時間を省くことができるのは、④ノートの時間であることが明白である。

そこで、ITを活用することで、学習時間を効率的に配分し、学習の目的を達成しようと考えた。

具体的には、以下のように、ネットワーク対応型の印刷機（理想教育財団による寄付）と、m i m i o や液晶タブレット等の入力装置を活用し、板書そのものを印刷、生徒に配布することで少しでも学習（思考）する時間を確保しようとするものである。

これらにより、効果的なIT活用の方策等について、実践・検証していく中で、学習効率の向上、基礎・基本の定着などを目指していきたいと考える。

〇実施方法



今回の研究は、次のイメージにより実施した。

- ①黒板右側にマグネットスクリーンを貼り、学習のポイントとなる事項をm i m i oでPCに取り込む。
- ②PC上に取り込んだ画像（板書）を校内ネットワークで職員室にある印刷機へデータを送信。
- ③必要枚数を印刷後、生徒に配布。

〇今後の課題

この実践により、5分から10分程度であるが、確実に時間を確保することは可能となった。しかし、生徒のアンケートでも、4割近くの生徒は「ノートに書く」ことを希望していることから、「書くことで覚える」という「書く文化」が存在することも確かである。

確かな学力を身につけさせていくためにも、黒板の余白の活用方法や板書だけでなく、インターネット等からの資料の印刷・配布等、他の利用方法についても、実践を積みながら研究を進めていきたいと考える。